

<定点把握感染症>

※表中の数値 上段:報告数 下段:定点当たり報告数

※定点当たり報告数が、▲:2週連続増加、△:今週増加、▼:2週連続減少、▽:今週減少

※◎:警報レベル

○:注意報レベル

疾患名	全国	山形県			村山地区			最上地区			置賜地区			庄内地区			累積(県)
	第32週	第32週	第33週	増減	第32週	第33週	増減	第32週	第33週	増減	第32週	第33週	増減	第32週	第33週	増減	
インフルエンザ定点 (定点医療機関数)		(47)			(19)			(5)			(10)			(13)			
インフルエンザ	191 0.04																16171
小児科定点 (定点医療機関数)		(29)			(12)			(3)			(6)			(8)			
RSウイルス感染症	4090 1.37	11 0.37	26 0.90	▲	4 0.31	17 1.42	▲	2 0.67	2 0.67		5 0.83	6 1.00	▲		1 0.13	▲	423
咽頭結膜熱	1180 0.39	13 0.43	10 0.34	▼	2 0.15	2 0.17	▲				10 ◎1.67	8 ◎1.33	▼	1 0.13		▽	668
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	3292 1.10	42 1.40	23 0.79	▽	23 1.77	8 0.67	▽	2 0.67	1 0.33	▽	13 2.17	12 2.00	▽	4 0.50	2 0.25	▼	3405
感染性胃腸炎	9119 3.05	112 3.73	42 1.45	▼	51 3.92	14 1.17	▼	3 1.00	4 1.33	▲	39 6.50	10 1.67	▼	19 2.38	14 1.75	▽	5372
水痘	591 0.20	4 0.13	7 0.24	▲	1 0.08	3 0.25	▲	3 1.00	2 0.67	▽					2 0.25	▲	438
手足口病	4096 1.37	64 2.13	57 1.97	▼	51 ◎3.92	40 ◎3.33	▼	8 ◎2.67	10 ◎3.33	▲	3 0.50	5 0.83	▲	2 0.25	2 0.25		1022
伝染性紅斑	663 0.22	1 0.03	4 0.14	▲		1 0.08	▲		1 0.33	▲	1 0.17	1 0.17			1 0.13	▲	308
突発性発しん	1174 0.39	25 0.83	27 0.93	▲	11 0.85	5 0.42	▽	1 0.33	11 3.67	▲	7 1.17	5 0.83	▼	6 0.75	6 0.75		570
ヘルパンギーナ	7020 2.35	273 ◎9.10	151 ◎5.21	▼	111 ◎8.54	60 ◎5.00	▼	12 4.00	20 ◎6.67	▲	111 ◎18.50	53 ◎8.83	▼	39 4.88	18 2.25	▽	1726
流行性耳下腺炎	354 0.12	2 0.07	4 0.14	▲					1 0.33	▲	1 0.17		▼	1 0.13	3 0.38	▲	99
眼科定点 (定点医療機関数)		(8)			(4)			(1)			(1)			(2)			
急性出血性結膜炎	3 0.00																
流行性角結膜炎	515 0.81	3 0.38	2 0.25	▼	1 0.25	2 0.50	▲				1 1.00		▽	1 0.50		▼	78
基幹定点 (定点医療機関数)		(10)			(4)			(1)			(2)			(3)			
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	2 0.00																20
クラミジア肺炎	1 0.00																
マイコプラズマ肺炎	108 0.23	5 0.50	10 1.00	▲	5 1.25	10 2.50	▲										94
細菌性髄膜炎	10 0.02																8
無菌性髄膜炎	21 0.04																6

<全数把握感染症>

疾患名	類型	報告数				備考
		村山	最上	置賜	庄内	
結核	患者	2				
	無症状病原体保有者		1			
腸管出血性大腸菌感染症	患者	3		1		型別: O157 VT1VT2 1人、O157 VT2 1人、O157 VT型不明 2人。
	無症状病原体保有者	2				型別: O157 VT1VT2 2人。
レジオネラ症	患者			1		
侵襲性肺炎球菌感染症	患者				1	※第32週追加報告分。ワクチン接種歴: 4回。
百日咳	患者	3				※内、第32週追加報告 1人。ワクチン接種歴: 4回 3人。小児 3人。

<通信欄>

※定点医療機関数が変更になっています。(インフルエンザ定点: 48→47、小児科定点: 30→29)

※追加報告により、第32週の報告数が変更になっています。(山形県、村山地区、庄内地区)

※トピックスで、腸管出血性大腸菌感染症、ヘルパンギーナについて掲載しています。

※定点把握感染症のグラフ・全数把握感染症の年間累積数については別紙(グラフページ)をご覧ください。

< 定点把握感染症 報告患者数 年齢別 >

インフルエンザ定点	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10～14歳	15～19歳	20～29歳	
インフルエンザ															
	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70～79歳	80歳～									合計
小児科定点	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10～14歳	15～19歳	20歳～	合計
RSウイルス感染症		8	12	3	2		1								26
咽頭結膜熱			2	2	3	1	1				1				10
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎				3	2	3	4	3	1	2	2	2		1	23
感染性胃腸炎	2	5	7	7	3	5	5	2	1	3		2			42
水痘		1	1				1	2	1	1					7
手足口病	1	3	12	10	11	9	3	4	3					1	57
伝染性紅斑					1	2	1								4
突発性発しん		10	13	3	1										27
ヘルパンギーナ	1	19	37	32	25	12	14	3	4		1	1		2	151
流行性耳下腺炎			1	1				1				1			4

< 平成30年7月 月報 >

2018年8月22日 発行

疾患名	山形県		村山地区		最上地区		置賜地区		庄内地区		累積(県) 1～7月
	6月	7月	6月	7月	6月	7月	6月	7月	6月	7月	
STD定点 (定点医療機関数)	(10)		(4)		(1)		(2)		(3)		
性器クラミジア感染症	報告数 15	18	9	12	2		2	4	2	2	131
	定点当り 1.50	1.80	2.25	3.00	2.00		1.00	2.00	0.67	0.67	
性器ヘルペスウイルス感染症	報告数 7	6	1		1	1	4	4	1	1	58
	定点当り 0.70	0.60	0.25		1.00	1.00	2.00	2.00	0.33	0.33	
尖圭コンジローマ	報告数 5	4	2	2			1	1	2	1	23
	定点当り 0.50	0.40	0.50	0.50			0.50	0.50	0.67	0.33	
淋菌感染症	報告数 3	2	2						1	2	19
	定点当り 0.30	0.20	0.50						0.33	0.67	
基幹定点 (定点医療機関数)	(10)		(4)		(1)		(2)		(3)		
ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	報告数 11	8	1		1	1	3	2	6	5	55
	定点当り 1.10	0.80	0.25		1.00	1.00	1.50	1.00	2.00	1.67	
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	報告数 22	20	12	10				1	10	9	127
	定点当り 2.20	2.00	3.00	2.50				0.50	3.33	3.00	
薬剤耐性緑膿菌感染症	報告数										
	定点当り										

< トピックス >

腸管出血性大腸菌感染症 情報

第33週に、腸管出血性大腸菌感染症の患者が4名、無症状病原体保有者2名報告されています。

< 第33週に報告された感染者の内訳 >

- ・村山地区: 患者3名(O157 VT2:1名、VT型別不明:2名)、
無症状病原体保有者2名(O157 VT1VT2:2名)
- ・置賜地区: 患者1名(O157 VT1VT2)

< 平成30年の感染者の内訳(第1～33週の合計) >

	O8	O26	O111	O115	O121	O157	OUT*	総計
村山地区		2	1	1		9	1	14
最上地区						1		1
置賜地区	1	2	1			9		13
庄内地区					3			3

※OUT: O-antigen untypeable

< 腸管出血性大腸菌感染症とは >

ベロ毒素を産生する大腸菌(腸管出血性大腸菌)に汚染された食べ物を経口摂取することによっておこります。3～5日の潜伏期間の後、激しい腹痛とともに頻回に水様便が出るようになり、のちに血便となります。溶血性尿毒症症候群や脳症を合併し、重症化する場合があります。

原因となる食品は肉や野菜など様々です。夏季に多く発生し、山形県では過去5年間の腸管出血性大腸菌感染症の報告の約半数が7～8月に報告されています。

予防のポイント

- ① 菌をつけない
手洗いを徹底し、清潔な布巾や調理器具を使いましょう。
- ② 菌を増やさない
食品はすぐに冷蔵庫に保存し、常温に放置しないようにしましょう。
- ③ 菌をやっつける
食品の加熱は中心まで、75℃、1分以上加熱しましょう。



ヘルパンギーナ 情報

県平均の定点当たり報告数は、5週連続で警報レベルとなっています。地区別では、村山地区、最上地区、置賜地区が警報レベルとなっています。

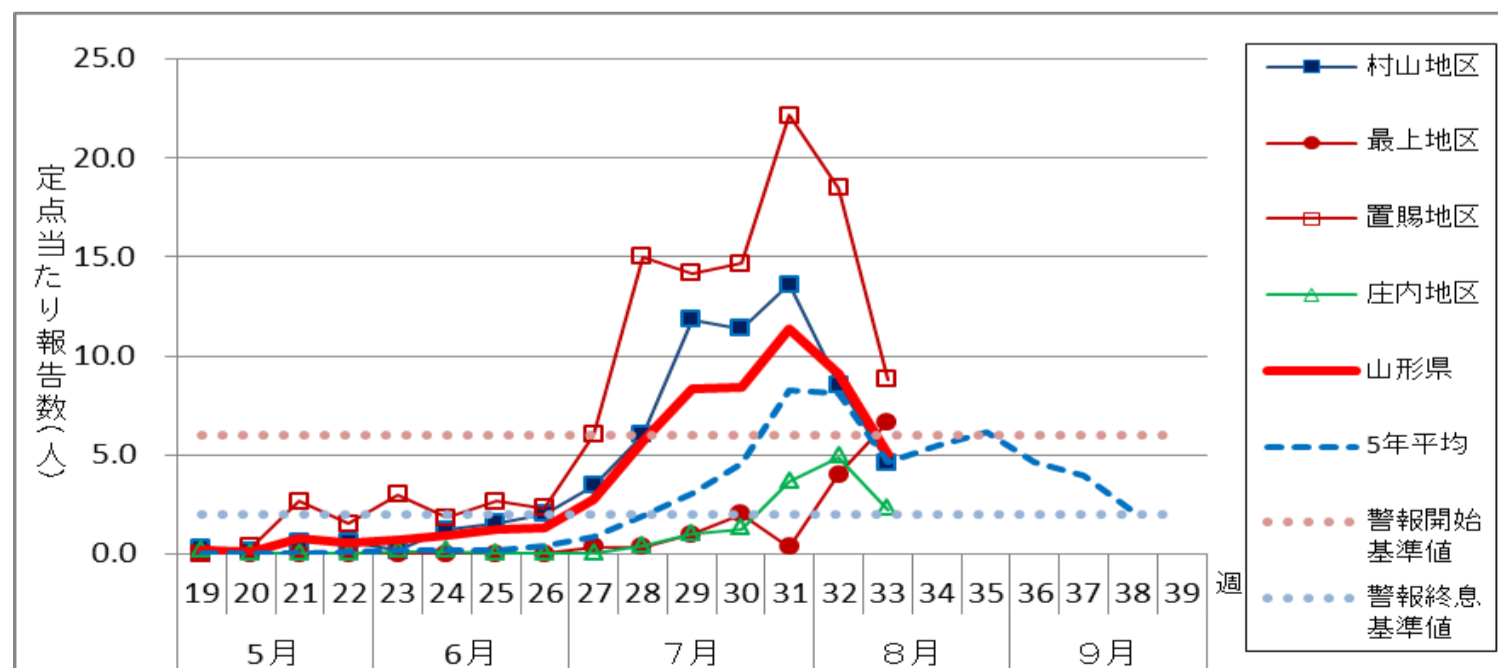
- ・警報開始基準値: 6人 警報終息基準値: 2人
- ・第33週 定点当たり報告数(山形県: 5.21人)
村山: 5.00人 最上: 6.67人 置賜: 8.83人 庄内: 2.25人

< ヘルパンギーナとは >

エンテロウイルス(コクサッキーウイルスA群など)による感染症で、幼児を中心に夏に流行します。

突然の高熱で発症し、続いてのどの痛み、のどの奥に水疱が現れます。のどの奥の水疱は、やがて破れて痛みを伴います。

< 定点当たり報告数の推移(山形県) >



予防のために、手洗いうがいを徹底しましょう。ヘルパンギーナは回復後も便中に2～4週間にわたり、ウイルスが排泄されます。おむつ交換やトイレの後は、特に入念に手を洗いましょう。

